

# 令和6年度 第2回学校評議員会 議事録

日 時 令和6年10月19日(土)  
10:00～11:30  
場 所 校長室  
参加者 A 委員 B 委員  
C 委員 D 委員  
F 委員 山田校長  
水田副校長 石川事務長

## 1 校長挨拶

- ・令和7年1月の「創立60周年 同窓会 大南陵祭」を紹介。
- ・前回の運営協議会から4か月が経過したが、大きな事故等もなく、新設された芸術科の演劇専攻生8人も頑張っている。SPACとの連携も順調である。
- ・体育館2階、旧柔剣道場の改修工事が完了し、第二多目的室が完成した。
- ・今年は異常な猛暑だった。暑さ指数31度で活動停止となるため、学校としては部活動を制限することがあり辛かったが、部活動等の各種大会で子供たちが活躍している。
- ・2学期開始早々、台風の対応に苦慮した。休校等で対応したが、本校は生徒の通学範囲が広く、また中等部のスクールバスや牛乳の手配が必要なため、事前に判断しなければならない難しさを実感した。
- ・体育祭も雨で2度の延期を余儀なくされ、ようやく先日(10/11)に開催できた。今年はPTAの協力でテントも設置した。暑さ対策で昨年度より開始時期を遅らせて対応したが、改めて開催時期や場所の検討が必要である。
- ・国際交流も積極的に行っている。今年は2件、モンゴルの留学生とフランスの学生との交流が控えている。
- ・同様に国際交流として研修旅行で中3・高2が台湾に行く。こうした取り組みは本校の特色の一つである。

## 2 施設と授業の見学

- ・第二多目的室の見学
- ・中2、中3、高1の授業見学

## 3 中間報告

### (1) 生徒の活躍

- ・配布資料に基づき説明

### (2) 学校の取組

#### ア 「行きたい学校づくり」推進事業について

- ・生徒の探究的な学びを促すことを目的とし、コンソーシアムを活用して他校と活動を共有している。清水地区は清水東高校が拠点校で、本校は連携校となる。

- ・本校は探究テーマを「あなたはどんな人になりたい」として、総合的な探究の時間に取り組んでいる。
- ・「行きたい学校づくり」推進事業は3年計画なので、今後も探究活動を展開させていきたい。

#### イ 学校の探究学習への取組

##### (ア) 中高一貫校としての取組

- ・モンゴルの高校生との交流で多文化理解を目指す。事前学習による動機付けを行った。
- ・ルーアンのコンセルバトワールの学生との交流においても、外部講師を招いた事前学習で、異なる価値観への課題に取り組んだ。

##### (イ) 高校としての取組

- ・高1と高2が企業の課題解決の取組を知るために、静岡ブルーレヴズに「地域との連携について」の講演を依頼した。
- ・高2は、台湾で学校交流や班別研修を予定している。事前にオンラインでの交流を進めている。

##### (ウ) 中等部としての取組

- ・自己探究週間を設け、中1では職場体験を実施する。
- ・研修旅行で中2は京都奈良、中3は台湾に赴く。台湾は現地学生との交流を予定している。

## 4 協議

### (1) A委員

- ・第二多目的室が大変良かった。素敵な施設ができた。ぜひ積極的に活用をして欲しい。
- ・生徒たちは真面目に授業を受けていた。特に国語の授業で「ミロのビーナスの両腕を想像する」とあり、国語とは思えない内容だった。対象が芸術科の生徒ということで、先生の工夫がうかがえた。

### (2) B委員

- ・毎回生徒達の雰囲気が変わる。視察する時期によっても様子が変わる。コロナ禍の際に制約があったいろいろなものが元に戻ってきた。研修旅行や海外交流など、コロナ禍でできなかったものが復活したが、コロナ前のやり方を改善し、現在の教育の中に落とし込まれている。
- ・授業について、プロジェクターと板書の併用や、生徒とのキャッチボールが良い。落ち着いて授業ができています。生徒の表情も良く、適度な緊張感がある。
- ・行きたい学校づくりについて、研修旅行や海外交流など、コロナでできなかったものが復活したが、昔のやり方とは一味違うと感じている。
- ・生徒の多様な活動について、芸術科だけでなく普通科の生徒が様々な分野で活躍している印象。「個」や「集団」で取り組んでいることが、いろいろな場面で見えてきている。コロナ禍を経て様々な活動がブラッシュアップされている。

(3) C 委員

- ・第二多目的室が想像以上に素晴らしい。演劇以外でも、有意義に活用してほしい。
- ・南高のスクールミッションに「グローバル人材の育成」があったかと思うが、そこに中等部生が参加しているのは良い。
- ・教育内容が時代とともに変わってきている（音楽：篠笛の授業）。生徒にとって良い経験となる。

(4) D 委員

- ・生徒たちが生き生きと取り組んでいる。ただ、授業で子供たちの声が聞こえてこなかったのが残念。グローバル人材として世界に通じるためには、他者と話すことが大事。
- ・「行きたい学校づくり推進事業」は、誰に対して「行きたい」と言っているのかが、あいまいである。外部への宣伝、広報はどうなっているのか。教育委員会はどうしたいのか。

(5) E 委員

- ・芸術や表現などは、他校と比べるのではなく南高独自の在り方に取り組んでいる。アドミッションポリシーの通りになっていると思う。
- ・「トビタテ！留学 JAPAN」は良い仕組みである。たくさんの生徒に活用してほしい。知らない生徒がいることはもったいない。積極的な広報をして欲しい。
- ・授業の手法については、アナログとデジタルの融合やハイブリットなど、上手く組み合わせられて進められている。時代の在り方に合わせて変わっていくことを感じた。
- ・以上の学校運営委員会の意見を今後の学校経営の参考にしていただきたい。

(6) 山田校長による補足

- ・「行きたい学校づくり推進事業」は、すべての県立高校がかかわっている県の一大プロジェクトである。私立学校や広域通信学校に対抗すべく、県立学校の魅力化を図っている。県内を 10 地区に分けリーダー校を設定し、その他の学校はそことコラボレーションして、本校でいえば対小学生・中学生への魅力発信の底上げの事業とも言える。
- ・「子どもたちの声が聞こえなかった、一方的な授業になっていた」とのご意見もあったが、いつもは授業中に生徒の活発な会話がされている。今日は授業のタイミングがあまり良くなかった。
- ・コロナ後の変容については、子どもたちだけでなく教職員にも見受けられる。ICTの積極的活用や働き方改革、会議の在り方検討、PTA活動の見直しなど、改善が進んでいる。